

3. キウイフルーツ花腐細菌病

(広域モデル地区の設置)

- 1) 設置場所：南高来郡瑞穂町
- 2) 設置面積：6 ha
- 3) 設置期間：平成2年4月～
- 4) 設置内容

(1) 調査解析圃の設置

①設置目的

花腐細菌病の発生と被害の調査並びに雨よけ被覆の物理的防除法と有効薬剤の組合せによる防除の実証、展示を行う。

②設置場所：南高来郡瑞穂町古部乙 山本剛氏圃場

③調査解析圃の内容

区 制	内 容	備 考
1	雨よけ被覆区	3/29 被覆
2	雨よけ被覆+ 薬剤散布区	3/14 コサイドボルドー×1,000、3/29 被覆 5/11 アグレプト水和剤×1,000、6/9 除去
3	環状剥皮区	5/1 1cm幅で木質部に達するまで処理
4	バンド締め区	5/1 8番線により処理、5/24 番線除去
5	慣行区	3/14 コサイドボルドー×1,000 4/15 カスミン液剤×400 5/11 アグレプト水和剤×1,000

④耕種概要：ヘイワード11年生

⑤生育相

4月3日発芽、5月23日雨よけ区満開日、5月26日露地区満開日

⑥調査方法

各区、結果母枝単位にラベルし、満開期に程度別に発病花率を調査した。

⑦調査結果

区	発病程度別花数 ¹⁾				調査 花数	発病 花数	発病 花率	発病 ²⁾ 度
	無	少	中	多				
1	256	2	2	2	262	6	2.3	2.3
2	204	13	4	8	229	25	10.9	5.3
3	122	22	24	14	182	60	33.0	16.3
4	125	35	20	10	190	65	34.2	13.6
5	48	47	41	73	209	161	77.0	48.5

注) 1) 発病程度 無：指数0、健全花。
 少：指数1、やくの一部が褐変
 中：指数3、やくの全体あるいは花柱の先端まで褐変
 多：指数6、花全体が褐変、腐敗

$$2) \text{発病度} = \frac{6 \times \text{多} + 3 \times \text{中} + 1 \times \text{少}}{6 \times \text{調査花数}} \times 100$$

⑧結果の概要・考察

雨よけ被覆によりほぼ完全に本病の発生を抑えることができた。また、薬剤を組み合わせると若干ではあるが発生が多くなる傾向がみられた。このことから、雨よけ被覆をすれば本病に対する薬剤の散布は必要ないと思われる。

次に、環状剥皮処理区、バンド締め処理区は、屋根掛け被覆区に比べると発生は多かったが、慣行区に比べると効果が高くほぼ同様の発病抑制効果が認められた。

⑨定着化のための条件

雨よけ被覆による発病抑制効果は高いが、費用が高価なため、それに見合うだけの着果量の連年確保が問題である。

環状剥皮処理あるいはバンド締め処理は、十分効果がみられるが、連年処理による樹体への影響とりわけ着果量の確保、また処理時期の検討も必要である。

(2) モニターの設置

①設置場所

モニター1 (環状剥皮)	: 南高来郡瑞穂町	谷口 唯夫
モニター2 (雨よけ)	: //	//
モニター3 (雨よけ)	: //	園田 知親
モニター4 (露地)	: //	五島 博行

②調査結果

区 分	調査花数	発病花数	発病花率	発病度
モニター-1	106	36	40.0	19.3
モニター-2	97	9	9.3	6.2
モニター-3	78	5	6.4	3.8
モニター-4	108	85	78.7	42.4

《参 考》

1991年4月、5月の降水量（諫早市西諫早）

4月	降水量mm	5月	降水量mm
1	0	1	0
2	0	2	0
3	0	3	0
4	0	4	0
5	2.5	5	0
6	14.5	6	11.5
7	33.0	7	0
8	0	8	4.0
9	0	9	0
10	33.0	10	0
11	1.0	11	
12	0	12	
13	2.0	13	
14	0	14	
15	0	15	
16	0	16	
17	1.5	17	
18	14.0	18	
19	0	19	
20	0	20	
21	0	21	
22	0	22	
23	0.5	23	
24	19.5	24	
25	0	25	
26	2.0	26	
27	0	27	
28	6.0	28	
29	0	29	
30	0	30	
31		31	